

深雪地飯山の常緑低木

丸 山 利 雄

T. Maruyama: Evergreen shrubs in the heavily snowy district, Iiyama, Nagano Prefecture

日本における深雪地は、日本海から30kmの距離にある地帯といわれている。飯山の国鉄飯山線沿線の地帯がそれに該当している。特に本年(1976)は、大寒の1月21日を中心として前後1週間夜昼雪が降り続いて、飯山線桑名川駅から森宮野原駅間は4m以上の積雪となって、列車は全く運休してしまった。この国鉄路線のある部分は、標高300~310mの地帯であるが、それより北約4kmの部分に、新潟県との県境をなす関田山脈があって、その背部は1100~1200mの高さである。その部分の例年の最深積雪は約8mで、本年は多分それ以上のことであろうと思われる。これらの積雪は、11月下旬か12月上旬に積りはじめて、4月下旬か5月上旬までであるのが普通で、谷間には6月上旬まで残雪が見られる。

このような地帯に見られる常緑樹は栽植のスギの外は、冬期積雪上に枝葉を見せるものとしてはアカマツ(極めて少ない)とツルマサキ・フユツタ(極めて少ない)とヤドリギだけがあって、その他のものは積雪におおわれて越冬する。たとえば、ユキツバキ・エゾユズリハ・ヒメモチ・ハイヌツゲ・ヒメアオキ・ツルツゲ・アカミヌツゲ・ヤブコウジ・ウチダシモンタチバナ(ミヤマシキミの1品種)・サルトリイバラ・ハイヌガヤなどである。そのうち、ヒメモチ・ツルツゲ・アカミヌツゲ、ウチダシモンタチバナは、標高1000m内外の高地にだけ見られ、ヤブコウジは400m以下の低地に見られる。ユキツバキとヤブコウジについて、全国的な分布と長野県内の分布とを資料によって調べてみると、次のようである。

ユキツバキは、本州の日本海側の深雪地帯に特産し、長野県内では姫川沿岸の深雪地帯と千曲川沿岸の深雪地帯と荒川(河口上越市直江津)沿岸の深雪地帯にだけ自生する。これらの自生地は、土地の高さに関係なく、冬期の最高積雪が平年でも3m以上の地域のみであって、それ以外の地域にはユキツバキは見られない。これは冬の厳寒期を厚い積雪におおわれて過ごし、寒さから保護される必要があるためと思われる。ヤブツバキの分布地は、長野県内では下伊那と木曽の年平均気温12℃以上の地域であると同様、ユキツバキもその生育を維持するには、その環境の年平均気温が12℃以上を必要とするためではないだろうか。

ヤブコウジもユキツバキに類した考察がなされる。ヤブコウジは、北海道から九州にまで広く分布するが、長野県内では下伊那と木曽の比較的暖い地域と、飯山・下水内地方と下高井地方との深雪地に分布し、深雪地では冬期1m以上の積雪におおわれて、厳寒期には積雪のため直接寒気にさらされない地域に限られる。